

地域貢献は地域を知ることから

私は校長として、校区の五つの地区によく出向きます。そして、地域の方たちと積極的に言葉を交わします。何気ない会話の中に、地域の人たちの思いや願いが入っていることがあります。聞き流してしまえばそれまでですが、ささいなことでもいから中学校が関われないかといつも考えながら接しています。日吉町の文化展に作品を引き取りに行った時のことです。こんなひとことを耳にしました。

「お年寄りたちが中学生の作品に感心していましたが、『これはどこの子やろう？地区名か親の名が書いてあるといいな』と話していましたよ。」

私は「これだ！」と思いました。地区の文化展に出品するだけでも十分地域貢献ですが、地域の人の思いにより応えるためには、作品の出品カードの隅に地区名や保護者名を書いてはどうでしょうか。今は美術家のH教諭が自身の達筆でそれを書いてくれています。先生、私たちが独自の出品カードを作りますよ」などと言っても面白いですよ。まさしくそれが「主体性」です。

大湫町の文化展では、スクラッチボードの作品を見て「これ写真か？」「どうやって作るんや？」と声を上げていた地域の方がいらっしやいました。旧釜戸中では取り組んでいなかったスクラッチボードです。びっくりされるのも無理ありません。

そうであれば、作品の作り方の解説を付け加えるのも面白いですよね。制作段階の写真なんかを加えると、興味津々で見てくださいるかもしれませんね。

昨日、令和三年度前期生徒会役員選挙立会演説会がありました。どの立候補者も北中の更なる発展のために、思いや考えを熱く語ってくれました。その中で、「地域とのつながり」について語る生徒が多くいました。ぜひとも取り組んでほしいと思いますが、その前に、一つ考えてほしいことがあります。



それは、地域のことを、もっと知ってほしいということです。「自分が育った地域ですから知っています」と君たちは言うかもしれませんが。しかし、案外知らないものですよ。とりわけ、「地域の人たちが今どんなことを望んでいるか、どんな思いをもっているか」については、君たちから近づいていかなないとわからないと思います。大湫の大杉倒壊は一大事であり、その分、地域の方たちの思いがわかりやすいものでしたね。

「お世話になってる」「地域のために」という気持ちは大切ですが、皆さんからの貢献の押し付けになってはいけません。そのためには地域を知ること。それは、家にいるおじいさんやおばあさんの言葉からもわかりますよ！（三月十一日 記）